

KADENA SKOSHI

OCTOBER 2012

Vol. 49



第18航空団広報局発行
www.kadena.af.mil

嘉手納スペシャルオリンピックス・美術作品展示会 @サンエー具志川メインシティ

第18航空団広報局



2012年10月18日から21日の4日間、うるま市のサンエー具志川メインシティ(1階メインコート)にて嘉手納スペシャルオリンピックス美術作品展示会が開催されました。

出展された絵画511点は、沖縄県内の県立特別支援学校や沖縄市、嘉手納町、北谷町で在学する知的 身体障がいのある児童や学生によって描かれた作品です。

初日の18日には主催者である嘉手納スペシャルオリンピックス実行委員会および米軍関係者が会場に集まり、才能豊かな障がい者の作品を称え、祝いました。この展示会を開催することにより、障がいの方々の多彩な技能を紹介し、その努力にエールを送っています。



(記事の写真全て、米空軍：ヘイレイ・ディヴィス上等兵撮影)

SKOSHI KADENA OCTOBER 2012



PART I 嘉手納スペシャルオリンピックス・美術作品展示会

嘉手納基地司令官、報道関係者に任務を説明

Skoshi Warriors

嘉手納外語塾スピーチプログラム「国際人になるために」

旧暦9月9日菊酒の日

PART II SpotLIGHT

一基地内で働く日本人従業員の紹介一

現役高校生、デリースが教えてくれる

嘉手納基地内学校情報あれこれ

在沖米軍のペット規則、特定犬種を禁止



(記事の写真全て、米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)



嘉手納基地司令官、報道関係者に任務を説明

第18航空団広報局



9月28日（金）、マスコミ倫理懇談会全国協議会の全国大会に参加するため沖縄を訪れていた日本の報道関係者約150人が、嘉手納基地を訪問しました。

アーウィン・プロフェッショナル軍事教育センターでは、同基地司令官のマシュー・モロイ准将が挨拶し、更に嘉手納基地の任務や戦略的な重要性について概況説明を行いました。その後、一行は嘉手納基地所属のHH-60救難ヘリと主力戦闘機であるF-15戦闘機を見学しました。

Skoshi Warriors

第18航空団広報局

9月8日、約300人の基地内の児童が参加して、軍人のdeployment（派遣）に関する手続きや運用活動を模擬体験を通じて学習しました。子供達の親である軍人が遠方の紛争地域や人道支援の必要な地域などへ「派遣」されるときどのような手続きを経て出発するのか、どのような活動があるのかなどを一日体験学習しました。



このイベントは「スコシ・ウォリアー（小さな兵士）」と呼ばれ、いくつかの部隊の活動内容の紹介もありました。第18憲兵中隊は軍用犬の訓練の様子を披露し、先任下士官協会の隊員は移動訓練を実演、陸軍の第1防空砲兵連隊第1大隊（パトリオット部隊）は装備品の展示説明を行いました。また参加した子供達は、消防用ホースを使用して消火活動を体験したり、迷彩用ペイントを顔に塗ったり体験学習に汗を流していました。

(記事の写真全て、米空軍：ラズロ・バボウシニ等軍曹撮影)





嘉手納外語塾スピーチプログラム「国際人になるために」 ヴェロニカ・ケメニー女史

第18航空団広報局

2012年10月4日、嘉手納町立嘉手納外語塾において第2回目となるスピーチプログラムが開催されました。外語塾生が英語への理解を高めるとともに、英語圏の社会人によるスピーチを聞くことにより、塾生の社会参加へ役立ててもらいたいという趣旨のもと、第18航空団広報局が協力し嘉手納基地に携わる軍人・軍属を紹介し塾生を対象とした講演会を行っています。

今回の講師は元米国空軍の広報官を務めた経歴を持ち、今回で沖縄滞在は2回目だということです。現在は専業主婦として家族を世話をする傍ら、沖縄国際婦人クラブ – Okinawa International Women's Club – (略してOIWC)で副会長を務め様々な福祉活動を行っているヴェロニカ・ケメニー女史が「Are you a world citizen?」というテーマで講演しました。3世代にわたる空軍一家で育ったケメニー女史は、予備役を含め現役で20年間、海外を含む空軍基地で儀典官や広報官として勤めました。空軍の基本理念でもあり、すべての分野にも通ずる3つの価値観 – 誠実であること、職務の優先と他人の尊重、常に最大限の努力でベストを目指すこと – を例を挙げて話しました。また、あらゆる指導者には、時に部下を叱責し監督することも求められ、リーダーシップと共に難しい判断を迫られる事もあるが、どこかに仕事の楽しみを見出し努力すれば成功に繋がる、と自己の経験談を交えて説明しました。

ケメニー女史はOIWCの活動として、沖縄県内の社会福祉施設等へ寄付をすることにより、地元の施設を支援しているそうです。ある作業所では、もっと沢山のクッキーを焼いて販売したいという目標があると聞き、OIWCで資金造成活動を行い業務用のオーブンを寄贈しました。現在その作業所では大量のクッキーを作ることができ、地元の大手スーパーで販売しているそうです。沖縄の方々に協力できたという喜びが、さらなる活動意欲に繋がると話しました。

(写真提供: 嘉手納外語塾)



最後に、ケメニー女史は、自分の考えを持つことが重要であること、また英語を通して現在の日中関係を始めとする様々な国際情勢や世界経済を知ることにより、沖縄に居ても国際人になることができる、と述べ塾生に期待を込めながら講演を締めくくりました。





旧暦9月9日菊酒の日

第18航空団広報局

10月23日は旧暦で9月9日にあたり、戦前嘉手納基地内にあった集落にゆかりのある人々が基地内にある拝所を訪れました。

沖縄市の人々が森根ビジュルを訪ねました。参加者はあよそ25名。森根ビジュルは1945年9月7日降伏調印が行われた場所の裏手にあります。近辺は家族住宅が多く基地内の子供たちが集う青少年センターも近くにあります。ビジュルのまわりやそこへ行く道沿いの草木はすっかり刈り取られ、ビジュルについての日英両語の説明板が設置されています。またこの拝所の清掃作業担当はRed Horse Det 1（レッドホース中隊第1分遣隊）の受け持ちという標識があり、部隊のボランティアらが清掃してくれたようです。歩きやすくなった道は久しぶりの訪問客に喜ばれました。小高いビジュルにはガジュマルがあり、その根元に3つの祠が鎮座しています。長老とあほしき女性が、真ん中の祠に先ず手を合わせ、『これは土地の神様』、続いて右、『これは井戸の神様』、最後に左の『アシビナーの神様』、とそれぞれ丁寧に祈りました。赤ちゃんを抱きかかえながら参加した若い夫婦や、小さい頃ここで遊んだという男性もいて沖縄の地域の風習が引継がれる風景がありました。重箱や菊酒を供え、線香（火はつけず）を手に元住民らは地域の守り神様に感謝の祈りを捧げました。

北谷町の上勢頭郷友会の「いーばる組（上原組）」の16名の方々が上原ビジュルと呼ばれる拝所を訪れ、菊酒や供物を石碑に奉納し祈りを捧げました。シーグワーと呼ばれる拝所には、同じく北谷町上勢頭郷友会の「稻嶺組」より19名が訪問しました。祠に向かって祈りを捧げた後、久しぶりに会う郷友会のメンバー達は、奉納後の重箱一杯に詰められた食べ物を分け合いながら歓談しました。同郷友会の人々は、日々に今回の訪問に備えて、清掃の調整をして頂いた基地内の環境整備担当の方々をはじめ、拝所を清掃してくれた基地内ボランティアに大変感謝しているとのことでした。

嘉手納町の久得郷友会からは、住民らあよそ20名が嘉手納弾薬庫内にある御獄を訪ねました。弾薬庫地区は施設の特殊性から立ち入りは厳しく制限されていますが、今回、嘉手納弾薬庫中隊は本旧暦9月9日の訪問意義に理解を示し、諸手続きを経て同中隊隊員の案内のもと拝所参拝が実現しました。

(写真全て、嘉手納基地広報局涉外部撮影)



九月九日
らくざき